カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名		
記入年月日	2006年4月1日	
学部・研究科名	教育学部	
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程	
コース等名	教科教育コース・保健体育選修	

教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き）

学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。

学校教育教員養成課程の教育目的（具体的に記述・箇条書き）

子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。

教科教育コース・保健体育選修の教育目的

運動やスポーツに親しむ楽しさを知るとともに、体育・スポーツや健康維持等に関する科学的な者を養成する。

学校教育教員養成課程教科教育コース・保健体育選修のカリキュラム

学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP)　（◎＝ＧＰ達成のために、特に重要な事項、○＝ＧＰ達成のために、重要な事項、△＝ＧＰ達成のために、望ましい事項）

教科教育コース・保健体育選修のGraduation Policy(GP)　（◎＝ＧＰ達成のために、特に重

授業科目名	授業科目の主題（箇条書）（この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書に記入する。）	授業科目の到達目標（箇条書）（この授業科目の学習後に到達すべき最低限の（行動）目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書に記入する。）	S１．教育理念理解力・教職展望力：　教育の理念や制度、教職の意義を理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。	S2．教育方法・技術力、指導力：　幼児・児童・生徒の心身の発達段階や教科の特質、教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。	S３．生活指導力：　道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、幼児・児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。	S４．教育実践力：　教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。	PH1．各種の運動・スポーツについて、それぞれの競技特性に応じて合理的に実践できる。	PH2．体育・スポーツや健康維持等に関する科学的な知識理解に精通する。	PH3．初等教 の指導法に精 る。
学部共通科目									
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	１．人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。　２．上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。　３．上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。	１．◎　２．◎	３．◎					
教職に関する科目（小・中）									
教職概論	１．教職の意義や魅力、求められる資質、能力などについて理解する。２．教職への意欲、志向、使命感などを育む。	１．教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 ２．教職への意欲や積極的な構えを持つことができる。 ３．教職に就くための４年間の学習計画を立てることができる。	１．◎　２．◎　３．◎	１．△	１．△	１．△			
教育原論	１．教育を成り立たせる原則 ２．教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開	１．教育の理念，目標，思想，歴史について説明できる． ２．授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる． ３．教育について系統的に考えようとすることができる．	１．◎　２．◎　３．◎						
教育哲学	１．教育哲学の学問的性格 ２．シュプランガーの生涯と教育哲学 ３．シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育	１．教育哲学の学問的性格が理解できる ２．シュプランガーの生涯と教育哲学が理解できる ３．シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育の特色が理解できる	１．◎　２．◎　３．◎						
教育史	１．日本の教育の理念・思想の歴史的展開 ２．日本の教育の歴史的性格	１．日本の教育の理念・思想の歴史的展開について説明できる． ２．授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる． ３．日本の教育の歴史的性格について説明することができる．	１．◎　２．◎　３．◎						
発達心理学	１．人間の発達の原理・要因について理解を深める。 ２．発達段階及びその発達課題について学習する。 ３．学校・家庭・地域など身近な場面での生涯発達として捉える。	１．自己の理解の上に立ち、発達心理学的知識を確実に吸収する。 ２．知識やデータを主体的に受け入れ、自ら考え、判断できる。 ３．日常生活に密接した興味・関心のある内容に意欲的に取り組む。 ４．心理学的研究の方法や分析など基本的な手法について理解できる。 ５．心理学を科学として位置づけることができる。		１．◎　２．◎ ３．◎　４．◎ ５．◎					
教育心理学	１．学校における教育活動において子どもをどのようにとらえるべきかを概観する。 ２．児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価についてデータに基づいて説明する。 ３．いろいろな指導法や心理療法について概説する。	１．子どもへの援助的な指導のあり方について理解できる。 ２．児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価における理論について、データに基づいた見方ができる。 ３．いろいろな子どもに沿った指導法や心理療法があることを理解できる。		１．◎　２．◎ ３．◎	１．○　３．○				
教育社会学	本講義では、準拠集団における子どもの社会的発達（＝社会化）について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎をつくる。	１．社会化概念について説明できる。 ２．子どもの発達に対する準拠集団の実態・課題について説明できる。 ３．講義中で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。 ４．現代社会における「子ども・教育」問題を指摘できる。またその出現・解決のメカニズムについて自分なりに解決しようとする意志を示す。		１．◎　２．◎ ３．◎　４．◎					
教育制度	１．学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。 ２．基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。	１．学校教育を中心とする教育制度の概要が理解できている。 ２．教育制度の特徴や課題について自ら具体例をあげながら論じることができる。	１．◎　２．◎						
教育法規	１．教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。	１．現行教育法規の要点が理解できている。 ２．主要な教育法規について、法規定の文言、その意図するところを把握できている。	１．◎　２．◎						
社会教育	１．生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。	１．生涯学習のねらい、キー概念などの基本的事項について理解できる。 ２．社会教育の各分野の概要と課題について理解できる。	１．◎　２．◎						
国際理解教育概説	１．国際理解および国際理解教育の必要性、基本概念、範囲について理解する。 ２．各自の専門教科での国際理解教育の取り入れ方や実践方法について考える。 ３．現在の日本の学校教育における国際理解教育との関連性を政策面および実践面から理解する。	１．国際理解および国際理解教育の必要性や概念 と歴史的展開について理解し、説明することができる。 ２．国際理解教育の実践事例を自身の専門性と関連付けて考察することができる。 ３．日本の学校教育と国際理解教育の関連性を理解し、説明することができる。	１．◎　２．○　３．◎	２．◎　３．○					
教育方法学	１．授業の基本原則 ２．主体的な学びの成立と指導 ３．教育課程の編成	１．授業が持つ４つの基本的性格について理解し、説明できる。 ２．児童・生徒の主体的な学びを呼び起こす指導の諸技術について説明できる。 ３．教育課程の編成原理と方法について説明できる。		１．◎　２．◎ ３．◎					
教育メディア論（教育課程，情報機器及び教材を含む。）	教授・学習過程（授業）において、「わかる」、「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割、効果について学修する。さらにパソコン、インターネットなどによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価について学修する。	1．メディアを利用した授業の特徴を理解できる 2．論理的、批判的な思考力と判断力について学び実践できる 3．メディアを利用した教材の開発ができる 4．自発的、独創的に取り組む姿勢がもてる 5．メディアを利用したプレゼンテーション実践を通して、その計画・実施・評価ができる		１．◎　２．◎ ３．◎　４．◎ ５．◎					
道徳教育	１．道徳の語源と意味 ２．西欧の道徳観の変遷 ３．道徳教育の目的・内容・方法	１．道徳の語源と意味について理解できる ２．西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 ３．道徳教育の目的・内容・方法について　理解できる。	１．◎　２．◎	３．◎	３．◎				
特別活動	１．特別活動の目標と内容 ２．学級指導の基本原則と方法 ３．特別活動の指導計画	１．特別活動の目標と内容について理解し、説明できる。 ２．学級指導の指導原則とその方法について説明できる。 ３．特別活動の指導計画作成の基本的観点と構成要素について理解し、指導できる。		２．○	１．◎　２．◎ ３．◎	２．△ ３．△			
生徒指導概論	１．生徒指導の意義と目的　２．生徒指導の内容と方法　３．生徒指導計画	１．生徒指導の意義と目的について理解し、説明できる。 ２．生徒指導の内容と方法について理解し、説明できる。 ３．生徒指導計画の基本的観点と構成要素について理解し、説明できる。		２．○	１．◎　２．◎ ３．◎	２．△ ３．△			
教育相談・進路指導	１．生徒指導と教育相談の違いについて説明する ２．学校における不登校、いじめ、非行などさまざまな問題に対する基本的姿勢について解説する。 ３．臨床心理学のさまざまな技法について解説する。	１．生徒指導と教育相談の違いについて理解する。 ２．不登校、いじめ、非行などさまざまな問題の原因を理解し、それらに対する基本的姿勢を身につける。 ３．臨床心理学のさまざまな技法について基本的技法を理解する。			１．◎　２．◎ ３．◎				
事前・事後指導	１．教育実習前と後に行う指導を通して、高等学校での教育実習の目標の達成をより確かなものとする 2．教育実習に求められる必要不可欠な基本的・基礎的事項を身につける 3．教育実習の意義・概要・指導方法についての講義を行う 4．教育実習で得られた経験から教育実習における問題点の整理し、実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識する	1教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につけ、実行できること 2．授業記録を作成することができること 3．授業参観等を通して、教育観、学校観、授業観、子ども観をまとめることができること 4．授業参観等を通して、自分が行いたい学習指導、生活指導・生徒指導を説明できること 5．教育実習で得られた経験から教育実習における問題点を整理することができること 6．教育実習を通して習得した内容をまとめることができること 7．実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識することができること 8．教育実習を通して、学習指導、生活指導・生徒指導の観点から自分の変容について説明することができること	３．○　７．○		４．○ ８．○	１．◎　２．◎ ３．◎　４．◎ ５．◎　６．◎ ７．◎　８．◎			
小**教職に関する科目（小）**									
教科教育法国語	小学校の国語科教科書における文学教材の学習指導のあり方について考究する。過去の優れた実践例や現在の指導例を紹介しつつ、今日の文学教育が当面する課題や問題点を検討してゆく。	１．文学教育の変遷および今日的課題について、概要を説明できる。 ２．文学教育の問題点や今日的課題について、自分の考えをまとめることができる。 ３．文学教育への関心を深め、実際の学習指導の改善に意欲的に取り組むことができる。 ４．多角的な視点から問題点を捉え、考察を加えることができる。 ５．自分の見解を口頭や文章で適切に表現できる。		１．◎　２．◎ ３．◎　４．○ ５．◎					
教科教育法社会	１．小学校社会科の教材研究と教材構成 ２．小学校社会科の授業構成	１．地域調査や教材研究を通して、小学校に対応した学習資料を作成できる。 ２．一定の題材に関する小学校社会科の学習を構想できる。		１．◎　２．◎					
教科教育法算数	１．小学校算数に関わる基本的な指導内容について解説する。 ２．小学校算数の指導方法に関して解説する。	１．小学校算数に関わる基本的な指導内容について理解する。 ２．小学校算数の指導方法について基本的な判断ができる。		１．◎　２．◎					

教科教育法理科	小学校理科に関わる科学的事象の中から重要な教材を取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。	1.小学校理科教材に関する基礎的知識を理解し、説明できる 2.小学校理科に関する実験・観察の技能を修得し、結果について適切な分析や評価ができる 3.自然事象を初め、身の回りの事象に広く興味関心をもつ 4.理科に関する児童の興味・関心を高める教授法を工夫できる		1．◎ 2．◎ 3．○ 4．◎		4．◎			
教科教育法生活	生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。なお、学校教育現場の教師による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。	1．生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。 2．生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性ついて説明できる。 3．授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。 4．生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 5．日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。 6．日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。		1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．◎					
教科教育法音楽	1．小学校の音楽科の実践に必要な、音楽科の役割・音楽的発達・音楽科の目標・評価などの知識や学習理論について教授する。 2．実践に向けて、学習計画・学習指導案について教授し、実際に教材研究を行って学習指導案を作成し、その模擬授業を通して授業研究を行う。	1．小学校音楽科に関する知識や学習理論を習得し、それらを音楽科の実践研究に活用することができる。 2．学習指導案の作成・模擬授業の実践を通して、小学校音楽科の内容・方法について研究することができる。		1．◎ 2．◎					
教科教育法図画工作	本授業は性格上、以下の２側面を持つ。（１）美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学Ⅰ～Ⅳ」の基礎。（２）初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。	1.普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。	1．○	1．◎					
教科教育法体育	1.小学校における体育科の教育内容・方法について学習する。 2.授業は体育領域（海野）と保健領域（友定）に分け実施する。そのため２グループ編成で、６～７回で担当を交代する。	1．小学校体育科の体育領域および保健領域について、その教育目標、教科内容･教材づくり、教育方法等に関する基礎的事項を理解する。		◎					
教科教育法家庭	1．小学校学習指導要領「家庭科」の歴史的変遷について 2．現行小学校家庭科の目標、内容・指導方法・評価について 3．家庭科の独自性について 4．授業設計の基本的観点について 5．指導案の作成	1.小学校学習指導要領の変遷を理解する。 2.家族や人と関わる意味やよさについて説明できる。 3.実習における安全、衛生を説明できる。 4.家庭科の教材と「よりよい家庭生活」形成の関連について理解する 5．「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。 6.小学校家庭科の基本的な事項について理解する。 7.授業を組み立てる際の基本的な観点について理解する。 8．児童の生活実態をふまえ、児童が興味・関心・意欲をもって取り組める指導案を作成できる		1．◎ 2．○ 3．○ 4．◎ 5．○ 6．◎ 7．◎ 8．◎					
教育実習（初等）Ⅰ	幼稚園教諭免許･小学校教諭免許のための基本および応用実習	1．小学校･幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2．児童に対する理解を深める。 3．教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎			
教育実習（初等）II	幼稚園教諭免許･小学校教諭免許のための基本または応用実習	1．小学校･幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2．児童に対する理解を深める。 3．教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎			
教職に関する科目（中）									
保健体育科教育学I	1.戦後体育実践史について，各時期の典型的実践を集団的に検討することを通じて，その展開と特徴を理解する． 2.また，今日の教育改革の動向の中で保健体育科がどのように変えられようとしているのか，学校体育全体（体育授業－体育行事－部活）のあるべき姿について，グループ研究－報告・討論－グループ研究－レポート作成という展開のもとに理解を深める	1．　戦後の体育実践の展開過程に関し、その特徴を説明することができる。 2.学校体育の領域と作用について、その区別と関連を説明できる。 3.個人またはグループで、課題意識に沿った資料収集と文献研究を行い、結果を論理的に述べることができる。 4.テーマに沿ったレポートや発表をわかりやすく、わかりやすくまとめて報告することができる。；	◎	○		○			○
保健体育科教育学II	1.この授業では，保健体育科教育の目的・内容・方法に関する諸説について概説し，それらを一貫性という観点から考察する． 2.また，後半では，小グループで実際に授業づくりのプロセス（教材解釈→教科内容の設定→授業プランの作成→評価計画）を追体験することを通じて，目標設定・教材づくり・学習集団の組織化・形成的および総括的授業評価等，体育実践の見方および構想の仕方について理解する．	1.体育の授業づくりに関わる基本用語について説明できる。 2．　先行実践に学びながらも、自分なりの独自な教材解釈や教材づくりに取り組む。 3．　グループによる取り組みに主体的に参加する。 4.学習指導案の形式にそって指導構想を叙述できる。；	◎	○		○			○
保健体育科教育学III	1.この授業では，保健体育科教育学IおよびIIの学習成果と教育実習での経験をもとに，「授業づくり－模擬授業－授業批評会」というプロセスを連続的に展開していく． 2.この過程を通じて，各自のもつ「よい体育の授業」のイメージを実践の形に具体化するとともに，授業を観察・分析する方法を習得する．	1．　授業を観察する際の視点を挙げ、説明することができる。 2.自らの描く「よい体育授業」の条件を、独自の授業分析方法に具体化できる。 3.様々な問題について、主体的に考えることができる。 4．授業分析の結果をもとに、整合性のある授業の解釈ができる。；	◎	○		○			◎
保健体育科教育学IV	1.体育科教育研究に関わる特殊テーマを設定し、先行研究を検討したり、調査を実施するなどして、テーマに関わる理解を深め、交流する。	1.グループまたは個人の設定したテーマについて、その学習成果をもとにわかりやすく説明できる。 2.関連する先行研究をもとにして、多角的（因果関係や水平的・垂直的分析）に考察することができる。 3．さまざまな問題について、主体的に思考し取り組むことができる。；	◎	○		○			◎
教育実習（中）	中学校教諭免許･高等学校教諭免許のための基本および応用実習	1．中学校･高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2．生徒に対する理解を深める。 3．教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎			
教育実習（高）	中学校教諭免許･高等学校教諭免許のための基本または応用実習	1．中学校･高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2．生徒に対する理解を深める。 3．教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎			
教科または教職に関する科目									
介護等体験実習	養護学校及び社会福祉関係の諸施設において、合わせて７日間、介護等の体験を行う。	個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させる。	○			◎			
国際理解教育論	1．国際理解教育とは何かを理解する。 2．国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる。 3．国際理解教育を学校教育で行う際の計画をたてる。	1．国際理解教育の理念と歴史を理解する。 2．地球的な課題について知識を深め、理解する。 3．地球的な課題についての自分の意見を持てる。 4．学校で実践する際にどのような内容にすればよいかを考え、判断できる。 5．学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。 6．複雑な国際問題を理解しようとする。 7．批判的に考えることができる。 8．自分の意見を論理的に発表できる	1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．○ 5．○	1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．◎ 7．◎	1．○ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 6．○ 7．○				
教科に関する科目（小学校専門科目）									
初等科国語	本授業では先ず、言語と人間の関係及び国語学力の内実について、考案し、次いで小学校国語科授業を構想する基礎となる教材分析の視点ちお方法について具体的な説明を試みる。	1．言語の機能について説明できる。 2．小学校国語科の「内容」の得失について説明できる。 3．教材を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。 4．言語の役割や働きに高い関心を持つ。 5．積極的に教材開発分析に取り組むことが出来る。 6．小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。 7．考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。 8．文学教材の授業改革はどうあるべきなのかについて理解する。 9．改革の視点を考えることができる。 １０．授業改革について関心を示すことができる。 １１．まじめに取り組むことができる。		1．○ 2．○ 3．◎ 4．○ 5．◎ 6．◎ 7．○ 8．◎ 9． ◎ １０．◎					
初等科社会	小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、それぞれの専門的視座から問題構造の概要を概説し、教材開発への方向性を示唆する。	1．小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、歴史学、地理学、法律学、社会学、哲学倫理学のそれぞれの立場から基礎的な理解を深める。 2．　小学校社会科教材分析の視点と方法を習得する。		1．◎ 2．◎					
初等科数学	1．学校教育の範囲で扱えるさまざまな数学的問題に自ら取り組む。 2．数学的見方・考え方，数学の面白さ，数学の価値等について考察する．	1．学校教育で扱えるさまざまな数学に理解を示すことができる。 2．数学的見方・考え方，数学の面白さ，数学の価値等について具体的に指摘することができる。		1．◎ 2．◎					
初等科理科	１（前半）受講者全員に対して、理科教育の歴史、教授方法、教材研究等について、池田が講義する。 ２（後半）小学校理科における学習内容およびその背景となる基礎を、物理化学分野と、生物地学分野に分けて講義する。	1.小学校理科に関する教材を科学的に理解する 2.自然事象に興味関心をもつ 3.小学校理科の教材研究ができる		1．◎ 2．○ 3．◎		3.○			
初等科生活	1．小学校低学年の生活科授業を運営して行く上で必要な栽培、飼育、表現等の知識、技能の修得を目指す。	1．生活科授業運営に必要な知識、技能を獲得する。 2．体験型授業の基本を理解し、構想できる。		1．◎ 2．◎					
初等科音楽	小学校における音楽科の教育実践に必要な音楽の専門的な知識や技術について指導する。	１.音楽に関する知識や理論が身についている。 ２意欲的に音楽活動に参加し、創造的に音楽を表現することができる。 ３.積極的に音楽的技能の習得に取り組み、音楽表現に生かそうとすることができる。		1．◎ 2．◎ 3．◎					
小学校歌唱伴奏法	ピアノ演奏の基礎と、その発展した形として、簡易伴奏法及び弾き歌いを学習する。	1．平易なピアノ曲を、中断せずに最後まで演奏することができる。 2．小学校の歌唱教材の弾き歌いができる。		1．◎ 2．◎					
初等科図画工作	小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な美術の基礎的技術、知識を習得する。平面造形、立体造形、鑑賞の３つの分野を学習する。	1．小学校の図画工作科における題材を理解し、表現技術と理解のための知識を習得する。 2．また、美的感覚を練磨する。		1．◎ 2．◎					
初等科体育	1．　小学校体育における各種の運動教材のうち、実技を通した学習として体操・器械運動とタグフットボールを学習する。 2.なお、実技は２班に分かれ、体操・器械運動とタグフットボールを途中交替してそれぞれ７回ずつ行う。	1.体操・器械運動とタグフットボールに関する知識およびルールの正確な理解 2.講義に真摯に取り組む態度 3.体操・器械運動とタグフットボールの実習および指導		1．◎ 3．◎					

初等科家庭	小学校で、家庭科を指導するために必要な基礎知識を学習する。食物・被服・住居・家族の4領域について学ぶ。	1.家庭科教育の各領域における基本的な知識を獲得する 2.各領域の専門的事項を教育に活用することについての判断ができる 3.専門的内容の理解に基づいて、家庭科教育に対する関心と意欲を高める		1．◎ 2．◎ 3．◎					
教科に関する科目（中学校専門科目）									
陸上競技	中学校体育科における陸上競技の走・跳・投の種目を行い、実技能力と指導能力を高めます。	中学校体育科における陸上競技の走・跳・投の種目について、実技能力と指導能力を獲得する。		○			◎	○	◎
水泳	1.水泳はプール実習を２年間にわたり履修すること（３日間×２）になっています。 2.プールで泳ぐだけでなく、担当教官の助言を受けながら泳力班別の活動計画の作成をはじめ、水泳に関する事前学習も行います。	1．近代泳法の泳力を向上させる。 2．水泳の指導法や指導理論を理解する。 3．水難救助の方法について理解する。		○			◎	○	◎
野外運動特習	1.冬期集中講義として、スキー・スケートなどの冬季種目をとりあげ、具体的な活動計画を作成し、実習をとおして指導法や指導理論の理解をはかる。 2.そのための事前準備・学習として学校教育における野外教育の意義・方法、スキー・スケートなどの技術指導の理論を学習する。	1.冬季スポーツとしてのスキーに関し、その指導法や指導理論を理解する。 2.学校教育における野外教育の意義・方法を理解する。		○			◎	○	◎
体操・器械運動	授業は実技実習を中心に行うが、実習の過程で指導法のポイントを学び取る手法で行う。	(1)生涯体育の基礎となる体力づくり、動きづくりの体操を学習する。 (2)器械運動の特性を理解し、技能の向上・修得に努め併せて指導法について学習する。		○			◎	○	◎
球技I	ゲームをとおしてフットボール系球技の基本的な個人及び集団技能を修得し、学校現場におけるそれらの指導法について学習する。	1.フットボール系球技の技術・戦術構造と技術指導の系統性について理解し、それを練習または指導計画として構成することができる。 2.ゲーム分析やルール作りなどで創意工夫をしながら取り組むことができる。 3.チームの中で役割を分担し合いながら、分業と協業の取り組みに主体的に参加する。		○			◎	○	◎
球技II	本授業では、バレーボールの個人的技能、集団的技能及びゲームの戦術について概説する。また、それらの指導法についても解説する。	1．バレーボールの基本となる個人的技能及び集団的技能を習得する。 2．バレーボールの基本となる個人的技術及び集団的技能を習得するための指導法を学習する。 3．ゲームを通して、ゲームの戦術を理解する。		○			◎	○	◎
軽スポーツ	生涯スポーツとして手軽にできるスポーツ種目について、そのスポーツの概要（おいたちと現況、競技の仕方）、方法（施設・用具・服装、競技の進め方、主なルール、審判の仕方）を理解するとともに、基本技能と練習方法などを修得する。	1．各種スポーツの基本技能、練習方法および審判法を説明できる。					1○	1◎	1△
エアロビクス	エアロビック・ダンスは，ダンスの要素を取り入れた健康・体力づくりを目的とした有酸素運動である。健康・体力づくりを目標にプログラムは構成され芸術的な踊りとは異なる特性をもつ運動である。プログラムは初級レベルでウォーム・アップ（準備運動），ステップ・メインダンス（有酸素運動），コンディショニング（筋力強化運動），クーリング・ダウン（整理運動）を含む６０分前後で構成される。音楽に合わせて全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。	1．エアロビックダンスの特性について理解できる。 2．エアロビックダンスの効果を実感できる。 3．動きの楽しさを共感できる。 4．積極的にグループワークに参加できる。 5．基礎プログラムを修得し、グループ発表ができる。					1◎ 2○ 3○ 4○ 5△	1△ 2○ 3○ 4○ 5◎	1△ ○ 4○ ◎
ダンス	そもそも人間は、演技的存在である。それゆえ本授業では、人間のしぐさや儀礼的な身体所作、情動とリズムを通して表出される豊かな身体表現の可能性を模索する。具体的には、 1．モダンダンスの理念、 2．ダンスの創作、 3．その指導法等を通して、非言語的コミュニケーションとしての多様な身体表現の可能性を学習する。表現運動の楽しさや表現運動を通して得られる運動文化の新たな側面を発見する。 以上のことを学習するために、本授業では、授業作品発表会の場を設け、授業作品を公開し、最終的な達成度を作品を通して評価する。	1.モダンダンスの理念を歴史的に理解することができる。 2.表現運動の基礎的運動、アクションフレーズの意味、専門用語を理解することができる。 3.基本動作を確認し、応用することができる。 4.表現したい内容を適切な身体表現としてアクションフレーズを応用し、組み合わせ、全体を構成することができる。 5.自主制作のダンス作品を通して、自己を見つめなおし、日常生活とダンスの関係について一定の関係を見出すことができる。 6.グループのリーダーとなり、率先して、作品づくりを進めることができる。 7.自主学習により、授業内容を反復、応用し、次回授業時までに高めておくことができる。 8.心を込めた作品づくりができる。 9.テーマについて真剣に考えることができる。 10.出来上がった作品を他人に見せることができる。 11.基本のステップ、ターン、ジャンプが正確にできる。 12.アクションフレーズの連続動作をリズミカルに再現することができる。 13.表現内容に即した作品を構成することができる。 14.表現内容に即した作品を演技することができる。コミュニケーション能力を備えた作品を舞台	○	○	△	○	◎	△	◎
武道	柔道の基礎的な技術の習得する．特に固技を重点的に行う．	1.柔道の基本技術の名称．動作を正確に理解する． 2.柔道の基本技術を正確に習得し，乱取りに応用する．					◎	△	○
体育原論	1.現代社会における文化現象としての体育・スポーツが有する諸問題、また今日の体育学、スポーツ科学が包括している諸問題を、哲学的方法を用いて省察する。 2.政治、メディア、国際化、民族問題、ナショナリズムと体育・スポーツ、遊戯論、身体論、スポーツ文学といった視点から投影されるパースペクテヴを紹介し、その論点を整理する。 3.具体的には複数の論文の中身を紹介しつつ、個人、集団をとりまく体育・スポーツ現象に対する学問的アプローチの基本概念を学習する。 4.講義時間内に体育を哲学するための思考トレーニングとして、「コミュニケーションカード」の記入を行う。	1.近代体育・スポーツの特性とその変遷について説明することができる。 2.遊戯論（プレイ論）から、近代体育・スポーツの根底に流れているスポーツ現象を分析し、性格づけることができる。 3.身体とコミュニケーションといった観点から、近代体育・スポーツが有する有効性について説明することができる。 4.スポーツ事象 を多元的角度から捉え、分析することができる。 5.スポーツ思想について事象を指摘し、説明することができる。 6.アマチュアリズム、アスレティシズム、オリンピズム、ナショナリズムとスポーツの関係を論理的に理解し、例示することができる。 7.実社会におけるスポーツ事象や、自分自身の体験を、授業で履修した内容にひきつけて考えることができる。	○	○	△	○	△	◎	○
体育心理学	1.本講では，体育心理学の沿革および基礎知識について説明し，運動・体育指導に役立つトピックを紹介する． 2.また，メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなど，運動・体育指導の現場で有用な技法を実践する．	1.体育心理学の基礎知識の理解 2.体育心理学の知識を応用しての問題解決力 3.真摯に授業に取り組む態度；	○	◎	○	△			
体育社会学	1． この授業では、現代社会における体育やスポーツを一つの社会制度としてとらえ、ほかの制度、たとえば経済や政治、教育や家族などの制度との関連性について概説する。 2.また、社会構造の中で体育やスポーツがどういう位置を占め、どういう機能を果たすのかについても概説する。	1.社会現象としての体育やスポーツ問題の状況、背景について説明できる。 2.社会現象としての体育やスポーツ問題の相互関係やその解決策について、自分の意見を述べることができる。 3.スポーツに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 4.日常生活の中でスポーツ問題について主体的に考えることができる。；	○	○	△	○	◎	○	
体育史	1.本授業では、体育・スポーツの成立過程を、主として近代化の観点から概観し、その歴史的位置づけを学習する（１.体育・スポーツの概念史 ２.近代スポーツの定義３.分析視角となる概念装置について）。 2.とりわけ３．分析視角となる概念装置については、体育・スポーツ史に関する種々の個別研究論文をとりあげ、微細な権力関係、国民統合装置としてのスポーツ、文化人類学的視点、文化帝国主義、文化ヘゲモニー、民族スポーツとの関わりについて学習する。 3.受講者は、幾つかの小論文の検討を行い、最終レポートを提出する。	1.近代スポーツの伝播過程を歴史的に辿ることができる。 2.日本における体育・スポーツの展開を概念史に即して説明することができる。 3.近代体育・スポーツ事象について、その文化的特性と歴史的脈絡を関連させて捉えることができる。 4.日本における体育・スポーツの成立契機についてその特徴を捉え、論じることができる。 5.スポーツ特有の文化伝播について、文化帝国主義や文化ヘゲモニーの観点を考慮し、今後のスポーツの発展・推移について、歴史的展開を考慮した上でその展望を論じることができる。	◎	△	△	△	△	◎	
体育経営学			○	○	△	○	○	◎	△
スポーツ法学	スポーツ関係法規は，内容的には，大まかにスポーツの振興，人権（保障）問題，及び事故責任と補償問題にかかわるものなどに区分できる。このようなスポーツ関係法規についいて，できるだけ事例に即して１５回にわたって，その意義や役割・機能及び構造等について述べる。								
野外運動論	野外運動に関する講義と実技・実習を行う。	主に「キャンプ活動」に着目し、野外運動・野外教育の手法を理解し実践力を養う。			○		◎	○	○
運動学(運動方法学を含む)	身体運動は骨格筋の収縮を骨に伝え、その力学量を環境に働きかけて遂行している。したがって、はじめに骨と関節及び筋肉についてのアウトラインを述べ、それを土台に柔軟性、筋力トレーニングについて概説する。つづいて、身体各部位の筋の構造や作用について理解し、身体運動との観点から筋の働きを考察する。 さらに、身体運動を力学的側面から分析するための力学的基礎と応用について解説する。	1．構造や機能を説明できる 2．関連器官の機能を関係づけられる 3．力学的分析にもとづき、動きの価値を評価できる 4．よりよいヒトの動きの分析と考察に寄与できる；	1○ 2○ 3○ 4○			1○ 2○ 3○ 4 ○	1◎ 2◎ 3◎ 4◎	1○ 2○ 3○ 4○	
フィットネス論	運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について学習する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても学習する。	1．トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について理解する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解する。 2．トレーニングによる一部の器官の適応を他の器官と関連付けて思考することができる。 3．新聞・雑誌などの記事から種々のトレーニング方法の情報を収集することに関心がある。				1○ 2 ○ 3◎	1◎ 2○ 3△	1◎ 2◎ 3△	
トレーニング処方演習									
保健体育学研究法	この科目は、保健体育学分野における研究法の基礎・基本の理解をはかるための演習である。〔授業内容〕以下の３方法の入門講義を５回ずつのオムニバス形式で運営する。1． 文献研究法（1）～（5）・・・・担当：池田2． 調査法（1）～（5）・・・・・・担当：三好3． 実験・統計法（1）～（5）・・・担当：上地	1．保健体育学分野における研究方法の基礎的内容を理解する。						◎	○

保健体育学特講	この科目は３年生を対象に既習の講義を踏まえ、総合をはかる演習である。以下の領域について、5人の教官が自己の専門分野から研究課題ならびに研究方法をガイダンスする。学生の卒業研究等の課題発見・設定をうながす学習を意図している。以下の分野について5人が５回ずつ担当する。 １．スポーツの教育 ２．スポーツの社会学 ３．スポ-ツの歴史 ４．スポーツの心理学 ５．健康の教育	１．自己の選択した研究領域に関し、近年の研究課題状況ならびに研究方法を理解する。 ２．卒業研究に向けて、学習興味と課題意識を深める。						◎	○
保健体育学演習I	本授業は、 １．各専門領域の先行研究に学び、 ２．自己の研究課題を決め、 ３．研究方法を深めるための演習である。各教官の研究室に所属し、指導を受ける。専門的な研究論文の読解、専門的な研究方法について、担当教官の指導のもと、自主的に研究・学習する態度を養う。	1.専門領域の先行研究の概要について説明できる。 2.各自の研究課題について自分の意見を述べることができる。 3.スポーツ問題興味を持つ。 4.スポーツ問題に関心をもつ。；						◎	○
保健体育学演習II	卒業研究を進めるための演習で、各自の研究課題に関わる先行研究の検討及び研究方法について理解を深めるとともに、論文作成の指導を行う。	1.研究課題の現代的意義について説明できる。 2.先行研究について理解することができる。 3.先行研究と自らの研究課題の関係について説明できる。 4.自らの研究課題について主体的に取り組むことができる。 5.問題意識を持って自らの研究課題にねばり強く取り組むことができる。 6.考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。；						◎	○
生理学（運動生理学を含む）	神経および筋の生理的機能について概説するとともに、運動制御機構における神経－筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について講義する。また、運動時の呼吸循環器系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて講義する。	「知識・理解の観点」 １．神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経－筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について理解する。 ２．運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について説明できる。運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について説明できる。 「思考・判断の観点」 １．運動制御機構における神経－筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序を説明できる。 ２．運動の種類による呼吸循環系の反応および調節機構の違いを説明できる。運動トレーニングの種類による呼吸循環系の適応の違いを説明できる。 「関心・意欲の観点」 １．運動制御機構における神経－筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化に関心を示し、生体の合理性などに関する意識を高める。 ２．運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について関心を持つ。運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について関心を持つ。；	1○ 2○ 3○			1○ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1○ 2○ 3○	
スポーツ生化学	運動によって生じる生体内の化学的変化とその機序について、とくに運動と関わりのあるエネルギー供給機構、酸素運搬機能、酸塩基調節能などを中心に概説する。	1．身体運動時の生化学的変化を説明できる。 2.運動時の骨格筋、血液、尿などの生化学変化などについて推論することができる。 3．運動時の生化学変化について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。	1○ 2○ 3○			1○ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1○ 2○ 3○	
環境適応学	暑熱、高圧（潜水）などの諸環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理的メカニズムなどについて講義する。	１．諸環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理的メカニズムについて説明できる。 ２．各環境下において、生体の適応を促す方法、および注意すべき事項について説明できる。 ３．諸環境に対する生体適応などについて感心を持つ。	1○ 2○ 3○			1○ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1○ 2○ 3○	
公衆衛生学	人間の健康に影響を及ぼす各種要因（食・環境・社会等）と疾病との関連や各種疾病に対する予防・対策並びに健康の現状及びその指標について講義する。	健康の維持増進や病気の予防のためにはどうすればよいのか、病気を引き起こす要因は何であるかを学び、自らの健康は自ら守るという考え方を養う。						◎	◎
学校保健I(小児保健，精神保健を含む。）	学校保健は子どもの健康・発達を支援する教育活動です。 自分自身の健康・発達状況をみつめながら、あるいは、これまでの自分の経験・体験を相対化しながら、子どもの健康・発達につながる援助の理論と技術を学びます。	１．現在の子どもたちの健康問題について解説できる。 ２．学校における健康管理について、働きかけや援助の理論を理解する。						◎	◎
学校保健II(学校安全，救急処置を含む。）	学校保健活動の教育的側面を扱う「健康教育論」を内容としています。 とくに、保健学習・指導の目的・内容・方法について、受講者が参加する方法をとりいれ、具体的に教授します。	１．中学校学指導要領における保健教育の目標・内容について理解する。 ２．教科保健の授業づくりの原則を理解する。 ３．自分で保健授業プランを作成できる。						◎	◎
卒業研究									
卒業研究	1．体育・スポーツに関わる諸テーマを設定し、その探究に務める。 2.卒業論文作成に向けて、各自設定したテーマに即し、調査、資料収集、文献解読、方法論の検討、論文の書き方について指導を行う。 3.成果は卒業論文中間報告会として保健体育選修構成員全員の前で授業時間以外にも3度の中間発表を行う。最終報告会も開催する。	1.各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 2．各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べることができる。 3．さまざまな問題について、主体的に考えることができる。；	△	△				◎	○
ＧＰ項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）									
総合的ＧＰ到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）									